

報道関係各位

平成 24 年 10 月 5 日

世界を代表する夜景が決定！

「世界新三大夜景」

選ばれたのは、「モナコ」「香港」「長崎」



MONACO



HONG KONG



NAGASAKI

この度、「一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー」では、世界を代表する夜景として「世界新三大夜景」を新たに認定し、発表いたしました。これまでの日本三大夜景の基準であった「港町の夜景であること」を踏襲する

一方、時代に即したものとして、「魅力ある夜景が楽しめること」「夜景観光への取り組み」を評価する新たな基準を設定。世界のあらゆる夜景を対象に検証し、これに該当する夜景として「モナコ」「香港」「長崎」が「世界新三大夜景」として選出されました。今後は世界的に PR を行って参ります。

＜世界新三大夜景とは＞

日本三大夜景、世界三大夜景というブランドは、いつ誰が決めたものか、定かではありません。調べると、1950 年～60 年代にかけての日本の高度経済成長期にかけて、旅行会社が商品造成の際に発信したのでは？と言われていますが、これも確かでありません。一方、それから 50 年。日本はもちろん世界の夜景は大きく変わり、「三大夜景」というブランドも新たな時代へと入っています。そこで、当時から半世紀が経過した現在において新たなる「世界三大夜景」を認定し、世界へ発信していこうとするものです。

＜世界新三大夜景・決定の流れ＞

2011年12月 一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューローの前身、「日本夜景遺産事務局」内に「世界新三大夜景認定委員会」を設置。

2012年5月 全国3500名の夜景鑑賞士（夜景検定資格保有者）に対し、
第一次ノミネート作業を実施（あなたが選ぶ世界のベスト夜景は？等）
(約120カ所)

2012年5月 「世界新三大夜景認定委員会」にて以検証作業を開始。

2012年7月 検証作業を受け、第二次ノミネートを決定（約18カ所）

2012年8月 第二次ノミネートから現地調査（必要な場合は管轄行政・
団体へのヒアリング作業を実施）を行い、最終ノミネート（6カ所）。

2012年9月 第一次・第二次・第三次の再検証を行い決定へ。
管轄行政・団体への報告。

2012年10月 「世界新三大夜景」の発表。

＜世界新三大夜景認定に向けた検証11項目＞

A. 魅力ある夜景が楽しめること

- ①対象となる都市を象徴する俯瞰的夜景が存在していること。
- ②鑑賞できる俯瞰的夜景に対してアプローチ可能な複数の視点場が存在していること。
- ③これら複数の視点場は対岸・対山等に分散し、それぞれが異なる表情を創出していること。
- ④視点場が整備され、安全性やバリアフリーが確保されていること。
- ⑤視点場へのアクセスが整備され、充実していること。
- ⑥対象となる都市において、夜間の観光的魅力を高める演出照明（ライトアップ）があること。
- ⑦複数の視点場において、夜間の鑑賞時間が比較的長く設定されていること。
- ⑧対象となる都市において、複数の夜景種類が混在し、鑑賞可能のこと。

B. 夜景観光への取り組み

- ①行政や地域団体、民間企業が夜景に対する観光的取り組みを行っていること。
- ②対象となる都市において、歴史的及び文化的夜間イベントがあること。
- ③国際的な観光への取り組みに積極性を持っていること。

「世界新三大夜景」 モナコの夜景・主な認定理由



“地中海の宝石”とも称される美しいリゾート地として有名。まるごと一国の夜景が楽しめるという、世界的に珍しく貴重な夜景を有する。エルキュール港の両眼の丘陵部に俯瞰可能な視点場が分散し、モナコ公国の異なる表情が鑑賞可能。日本国内では見ることが出来ない豪華クルーザーが停泊する魅惑的なマリーナ“エルキュール港”的夜景のほか、安全性が確保された街並みが瀟洒な表情を浮かべる「市街の夜景」、大公宮殿やグラン・カジノにみる歴史的建造物が闇夜に浮かぶ「ライトアップ」や花火等の「夜のイベント」等、夜景の種類はもちろん、夜間イベントも豊富。公式 HP に夜景専門ページを設けるなど、夜景を活用した観光的取り組みも進んでいる。

「世界新三大夜景」 香港の夜景・主な認定理由



世界三大夜景と称される香港の夜景。今回の認定でも見事に選出された。国際的な夜景観光地であるビクトリアピークと対山のカオルーンピークの俯瞰可能な二大視点場を有し、香港の港を中心とした全貌を体感できる。また、香港銀行等の先進的なライトアップ、「シンフォニー・オブ・ライツ」の都市をまるごと活用した大規模な光のショーのほか、香港島、九龍半島、ランタオ島には、リゾート夜景や埠頭夜景等の様々な夜景の種類が点在。1泊、2泊滞在しても全てを眺めることが難しいほどの夜景資源が豊富である。香港政府観光局は夜景 PR を継続的に行い、HP においても独自の「香港夜景美術館」を立ち上げ、ソーシャル的な取り組みも行っている。

「世界新三大夜景」長崎の夜景・主な認定理由



競合ひしめく日本国内の激戦を制し長崎。港街としての情緒溢れる夜景は、長崎港を取り囲むすり鉢状の地形を有し、稲佐山・鍋冠山・風頭公園などの多方向からの俯瞰的な夜景鑑賞を可能にしている。各視点場における夜景もまた異なる表情を有し、長崎夜景の懐の深さを伝えている。近年の視点場の環境の整備状況もいい。大浦天主堂、出島、女神大橋、眼鏡橋、等のライトアップ、観覧車によるアミューズメント夜景等の夜景種類も豊富で、長崎ランタンフェスティバル等の夜間のイベントも存在。さらに、夜景による観光パンフレットや HP「長崎ノ夜景」、夜景ナビゲーターの養成等、ソフト&ハード両面のバランスも整い、国際的な夜景観光に積極的に取り組んでいる。

＜認定団体について＞

認定団体：一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー

目的及び事業(定款より抜粋)

当法人は、夜景を観光資源として活用する観光「夜景観光」に関する普及、啓発活動を行い、もって地域の活性化及び観光産業全般の発展に貢献することを目的とし、その目的に資するため以下の事業を行う。

- 1) 夜景観光に関する情報収集及び普及、啓発活動
- 2) 日本夜景遺産の認定
- 3) 夜景鑑賞士の検定事業
- 4) 夜景サミットの企画、開催、運営
- 5) 夜景に関する各種イベント、セミナー、講演会等の企画、制作、開催、運営
- 6) 夜景観光コンサルティング事業
- 7) 夜景観光プロデュース事業
- 8) 夜景ナビゲーター、夜景ガイドの教育、育成事業
- 9) 夜景に関する書籍、出版物、コンテンツ企画、制作、執筆、編集、デザイン、写真撮影、発行、販売
- 10) 夜景に関する各種商品の企画、開発、販売及びそのプロモーション事業

11)当法人の目的を達成するために必要な事業及び前各号に附帯又は関連する一切の事業
同団体が運営するWEB サイト等による会員数:12 万人
同団体が運営する「夜景検定」認定者会員:3500 名
代表理事:丸々もとお(夜景評論家・夜景プロデューサー)
夜景に関するネットワーク会員数は日本のみならず世界ナンバーワンを誇ります。
夜景に関する認定団体は当団体以外にはありません。

＜御取材＆御掲載のお問い合わせ＞

一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー
東京都中央区勝どき 1-13-6 プラザタワー勝どき 3412
電話 : 03-6204-0115 (代表) 電信 : 03-6204-0112
info@yakeikentei.jp
担当 : 瀬戸怜人、丸田あつし